

職業奉仕 について考える

職業奉仕はロータリーの金看板といわれております。手続要覧によれば、職業の世界において、奉仕の理想を推進することを目的とし、個々のロータリアンが、その職業関係のすべてにおいて高い道德水準を適用し、かつロータリアン各自が、この水準を、自分と職業を同じくする他のすべての人々の間に推進することを意味するものであると記されております。10月の職業奉仕月間にちなみ、1. 職業奉仕の原点について、2. 最近の職業奉仕について思うこと、3. その他の職業奉仕について、5人の方方からご意見をいただきました。

(順不同)



隣人愛という原点



東京東 佐藤 千壽

“職業奉仕の原点”を問われれば、私は“隣人愛”と答える。“隣人愛”という土壌から伸びた職業奉仕の幹だから、それでこそ社会奉仕や国際奉仕という枝も出てくるのだ。ここにいう“隣人愛”とは初期プロテスタンティズムのエートスに発するものであって、少なくともロータリーのいう職業奉仕を正しく理解するためには、信仰は各々自由だが、初期プロテスタンティズムの信徒達が持っていた職業観を知る必要がある。日本ではよく老舗の家憲などが引合に出されるが、結果として現れる行動様式はそれなりに職業奉仕の理念に適合しているので、説明としては手っとり早い方法かもしれない。

しかし原語の Vocational Service という語感を腹の底から理解するには、やはり職業を召命 Calling と認識するエートスにまで遡らなければなるまい。職業倫理を、子々孫々にわたって家業を永続繁栄させる信用の基本と認識するか、職業即隣人愛実践と確信するかの相違が問題なのだ。初期プロテスタンティズムのエートスにおいては、まさに後者であってこれを理解しなければ、Service above Self の標語も、四つのテストも本当に腹の底にしみ透ってこないだろう。“職業奉仕は難しくよく分からぬ”という嘆きもこの辺に理由がある。

ロータリーの職業奉仕には“同業者関係”という一項があるが、日本人同業者間の猛烈な過当競争や、今日の深刻な貿易摩擦も、やはり“隣人愛”という職業観の欠除によるものだと思う。“信用”という点では日本の商品は抜群である。しかも取引上何の不正をしているわけでもない。真面目に一所懸命働くのがなぜ悪い…これは我々の偽らざる感情だ。しかしそれなのに非難される——何故だろうか？視点を変えて考え直すよい機会だろう。(第258地区 1974-75 PG)

心に重きをおく



銚子 小原 美紀

ロータリーの基本である奉仕の理念は、他人の身になってものを考え、思いやりの心をもって行動することです。人々が幸福で平和な生活ができることは、今も昔もまた将来も変わらぬ人類共通の悲願であり、奉仕の理念はまさしくこの悲願の達成に役立つもので多くの人達の共感と呼び、ロータリーは目覚ましい躍進を遂げたのです。奉仕の理念は人々の心を豊かにする特効薬で、人生の歩み方として最上の指針でもあります。ロータリーは常住坐臥これを貫くことを求めており、これによって充実した人生観がひらけるのであり、職業の場においてこれを具現するのが、いわゆる職業奉仕であります。他の奉仕団体にはない観念で、職業奉仕がロータリーの金看板といわれるゆえんです。しかも四つのテストの提唱により、奉仕の理念は倫理感と正義感によって裏打ちされ、世界の心ある人達の共鳴の度を深めたのであります。以上が職業奉仕の原点であります。

職業奉仕の本質上、何が職業奉仕かを正面から論ずるよりも、むしろ逆の方面すなわちアンチ職業奉仕の事例を取上げる方が理解し易いかと存じます。昨年世間を騒がした有毒ワインや豊田商事事件、古くは水俣病その他の公害関係企業のあり方、また最近海外から手厳しい批判を受けているわが国の輸出企業の態度についても大いに問題があると思います。これらに対する正常な世論の喚起も職業奉仕活動の重要な一面であります。

最後に、ロータリーでは時折指導者により強気な金集め旋風が巻き起こされることがありますが、私どもは金や物ではなく心に重きをおくロータリーの本質を見失わず、地域に密着した地道な活動を続けることが肝要でしょう。

(第 279 地区 1983-84 PG)

職業奉仕の原点



福岡 中牟田喜一郎

ロータリアンにとって職業奉仕はむずかしいテーマとして受けとられています。それは本来職業奉仕がクラブで集団で行なうものではなくロータリアン個人が、日常的な自分の職業を通じて行なうという、きわめて倫理的な要素を含んでいるからだと思います。

一般に企業は激しい競争の中で許せる限りの利益を求め、それによって社会に役立つ一方で従業員とその家族の生活をたてています。競争に勝敗はつきものですが、われわれの職業には自ら一定の社会的ルールが作動しており、そのルールはお互いの公平と協調によって保たれていることも間違いありません。

このようなフェアプレーと思いやりの心こそ、ロータリアンが持つべき職業奉仕の原点であろうかと存じます。しかし、それがむずかしい。私は若いころからテニスに親しんできましたが、正式な試合ならば審判が13人、観客も何千人といます。そんな中でもフェアプレーはむずかしい。ラインに入ったか、どうかの球など、瞬間的に自分に有利に判定したい気持ちが動くものです。

その点ではアルピニストが、ひとりでもルール、エチケットを守って登ると聞いて感銘を深くしています。

先日、福岡市教育センターで小、中学校長の研修会があり、百貨店の経営経験をお話しました。学校と企業では経営のあり方もかなり違うように見えますが、フェアで、思いやりが必要であることでは同じと言ってよいでしょう。

国内外とも変化の激しい時代だけに、私は自分の天職を通じて、いかに社会のお役に立つか一ロータリアンとしてその原点を見失わないようにしたい。そして、その原点は真実、公平、好意と友情、みんなのためになるか、という

“四つのテスト”に最もよく集約されているように考えています。(第270地区 1982-83 PG)

ロータリーよ どこへ行く



神戸東灘 坂本 智元

職業道徳律が廃止されて既に何年かが過ぎました。ロータリアンの職業活動の指針としてその崇高な理念ゆえに大切にされていたものがなくなったのですから、多くのロータリアンから失望のあまりR Iの考え方について、いろいろの批判が出るのは当然のことといわなければならないでしょう。

私どもの第268地区では職業道徳律に代る職業活動の規範を作ろうということになって、昭和59年の地区大会で『職業奉仕に関する新道徳律作成の件』が満場一致で採択されました。今日の社会情勢から考えて、職業倫理の昂揚とその実践を図ることが重要であるとの認識に立って、当地区独自の道徳律を作ろうということになったのです。直ちに特別決議に基づく委員会が設けられて、以後2年間にわたって研究が進められ、昨年末に『職業訓草案』がまとまっ

て本年3月の地区大会に報告されました。今後は地区内各ロータリークラブでこの草案を検討してその意見をガバナーに報告し、これらの意見を職業訓草案に反映し再検討の上、次の地区大会に提案する段取りとなっております。こうしたことは職業道徳律を貫く崇高な理念を、新しく作成される職業実践の軌範の中に引継ぎたいという、この地区ロータリアンの強い念願の現れといえましょう。

最近になってシェルドンの He Profits Most Who Serves Best の標語が削除されることになりました。職業奉仕の出発点となりロータリー史に極めて重要な位置を占めるこの標語が何故に消されねばならないのか理解に苦しみます。更に重ねて本年のシカゴの規定審議会の際にR Iの理事会から『決議23-34』の廃止が提案されました。これはロータリーの奉仕の精神の根本にかかわる問題で、幸い今回はR Iの理事会自身を取り下げましたので事なきを得ましたが、R I理事会がかかる提案を行なったことについて不安を感じる次第です。

私共はロータリーを単なる奉仕団体とは考えておらず、それはわれわれ職業人の自己研鑽の場であり、人類の共存と平和を推進するために心を養うべき場であると考えております。このことを具体的に指し示してくれたものが次々に

ポリオ・プラス協賛への地区第1号

日本ポリオ・プラス委員会委員 第251地区直前ガバナー 望月 武義

第251地区では、昨年度の地区年次大会において、ポリオ・プラス・プログラムに全面的協力を行なう件を満場一致で可決した。その実施年度を迎えて、三浦祐晶ガバナー(札幌北RC)は、その実行を最重点施策として採り上げ、具体的な目標を示して、力強い第一歩を踏み出した。

昨年度、地区大会のホストをつとめた岩見沢

RCでは、ポリオ・プラス・プログラムの持つ意義を踏まえ、多数の市民にも、この主旨を伝えることの必要性を考慮の上、市民参加による「チャリティ・ビール・パーティー」を企画した。長谷川会長ほか全会員の意欲的なパーティー券の売りさばき努力が実を結び、7月28日のパーティー当日は、横路知事の代理として、斉藤空知支庁長や国兼岩見沢市長の参加をはじめ、700